

# 第1分科会（講義形式）

## 大学における教育評価の在り方再考 ～新学習指導要領導入後の教育評価～

### 概要：

2022年度から高等学校で年次進行で実施されている（現行の）学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に沿って各教科の目標と内容を再整理し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図る、指導と評価の一体化を目指している。それに伴い様々な評価方法が導入され、25年度より入学した大学生もそうした評価方法に馴染んでいると思われる。高大接続改革の必要性が声高に叫ばれる今、大学教員は旧態依然の授業や「知識及び技能」のみを重視した評価方法を実施していてよいのか。今後の大学の教育評価はいかにあるべきか、その課題と方法を検討したい。

### <プログラム>

10：00 趣旨説明

京都薬科大学 薬学部 講師 岩崎 大輔氏

10：10 講演1. 「測りすぎの時代の学習評価のあり方を考える—高校と大学の場合—」

京都大学 大学院教育学研究科 教授 松下 佳代氏

10：40 講演2. 「新学習指導要領の課題と、大学の外国語授業における対応について」

慶應義塾大学 理工学部 教授 山下 一夫氏

11：10 講演3. 「「主体的・対話的で深い学び」の実践における課題と対策」

大阪成蹊大学 教育学部 准教授 高橋 昌由氏

11：40 休憩

11：50 質疑応答